

より安全に安心して、ご利用いただくために！



利根町国保診療所では、正面玄関入口を自動ドアに改修し、スロープを新たに設置しました。

これにより、体のご不自由な方や車いすをご利用されている方は、玄関先まで車で行き、新たに設置したスロープなどを利用して待合室に入ることができます。

これからも町民の皆さまに、より安全に安心してご利用いただける診療所を目指してまいります。



▲車いすの方も、安心・安全

筑波大学と連携し、地域医療教育の向上に寄与！



利根町国保診療所では、筑波大学と連携して地域医療教育の場として、医学生や若手医師、指導医を受け入れ、外来診療や訪問診療（往診）などを通じて、多くの患者さんや地域の方々々と接し、地域医療の現場を肌で感じてもらっています。

この事業の大きなメリットは、大学の講義や病棟での実習だけでなく、実際の地域医療の現場で、患者さんやそのご家族、地域の方々々と触れ合いながら教育や実習が行えることです。

「地域で活躍する医師は、地域で育てる」のコンセプトのもと、さらなる地域医療の向上に寄与してまいります。

来院される患者さんや町民の皆さまには、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

利根町で近畿大学・流通経済大学合同ゼミを開催！



昨年11月26日(月)・27日(火)の2日間の日程で、役場において、近畿大学上崎ゼミと流通経済大学坂野ゼミとの合同ゼミが開催されました。

この合同ゼミは、「利根町の観光」をテーマとして行われ、学生達が町内各所を散策した後に、役場内の会議室で学生達による活発な議論が行われました。

議論した内容は提言書としてまとめられ、佐々木町長に提出されました。学生達からは、道の駅の設置や鎌倉街道の整備の必要性について意見が出されました。

合同ゼミの最後に、佐々木町長から両校の学生に対し、労いの言葉とともに感謝状が手渡され、合わせて今後は利根町のプロモーション応援隊として、PR活動への協力をお願いしました。

自転車交通安全教室を開催！



昨年12月11日(火)利根中学校において、取手警察署の主催と全国共済農業共同組合連合会の後援により、スタントマンによる交通安全教室が開かれました。

この教室には、利根中学校の全校生徒(322人)と町内3つの小学校6年生児童(114人)が参加しました。

スタントマンは、自転車の2人乗りや並列運転など危険な乗り方が原因で車と衝突した事故を再現、その様子に児童生徒は驚きの声を上げていました。

この教育手法は、「スケアード・ストレイト」と呼ばれ、事故の恐さを直視することで、危険な行為を自主的に行かせないようにする教育手法です。

スタントマンの方からは、「自分の身を守るためにルールがある」ことを教えて頂きました。

未成年者飲酒防止教育学校コンクールで文小学校が最優秀賞を受賞！



ビール酒造組合の主催により、昨年11月23日(金)、野村カンファレンスプラザ日本橋(東京)にて開催された、未成年者の飲酒防止を目的とした、飲酒防止教育の取り組みの発表および表彰式が行われました。

利根町からは、文小学校の学校関係者と保健委員会を代表して6年生2名が出席し、「児童保健委員会と取組む飲酒防止教育」について発表が行われました。

選考委員会による厳正な審査の結果、小学校部門で文小学校の取り組みが最優秀賞を受賞し、審査委員長の東ちづる氏(女優)からは、「発表はとても素晴らしく、内容もわかりやすく面白かったです。」と評価を頂きました。

このコンクールは、未成年者の飲酒が及ぼす健康への弊害などの理解促進を狙いとして、実施されたものです。

町の話 話題 PHOTO NEWS 消防出初式



1. 若鷺会による梯子乗りの様子。2. 本部員の合図で一斉に点検を開始します。3. 各賞を受賞された方々。4. 観閲入場する一台一台に敬礼！5. 終了後の記念撮影。

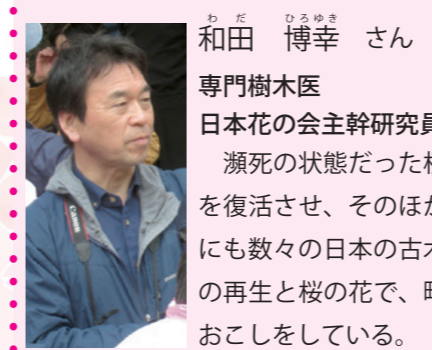
1月6日(日)、役場において、毎年恒例の消防出初式が挙行されました。第1部は、観閲入場後中隊長の指揮により、機械器具の点検が実施されました。また、各団員は素早い動きで点検を行い、万が一の時でも迅速に行動できるよう訓練を行いました。第2部は、イベントホールにて式典が行われ、消防庁長官表彰など、長年活動継続した消防団員、消防功労者等に対し、感謝状や表彰状が贈られました。第3部は、駐車場で龍ヶ崎消防組合「若鷺会」による、梯子乗りなどの披露がありました。梯子乗りでは、ポーズを決めることに観客からは大きな歓声と拍手が贈られました。今年も消防職員の勇姿や、若鷺会による素晴らしい演技は圧巻でした。ぜひ、来年の出初式を見学してみたいかがですか。

利根町が誇る桜の名所づくりに向けて！



1. 来年開催予定の国体むけで、コース上へのぼり旗設置のシュミレート！2. 開催されたオーナー会議にて、みなさん真剣です。3. 来春は今年以上の桜が咲きほこってほしいですね。4. 木に登って樹木の管理を行います。

桜のプロフェッショナル！



茨城125選にも選ばれている利根川沿いの桜のトンネル。毎年春には、約850メートルにわたって植樹された桜が満開となり、その満開の桜のトンネルの下をお散歩したり、絶好の撮影スポットとして写真を撮りにカメラマンがごぞって集まったり、ここ近年では、外国の方も見に来ていたり、利根町の名所として定着してきたかと思えます。

その名所である桜のトンネルをさらにパワーアップさせようと、利根町桜づつみ保存会は昨年の11月10日(土)に、専門樹木医で日本花の会の研究員である和田博幸さんを講師に迎え、オーナー会議を開催しました。

桜を育てていく上での大事なことや立派に成長させるための知識・情報など、和田さんの的確なアドバイスに、保存会のメンバーをはじめ、集まったオーナーの方々も終始真剣な表情で聞き入っていました。

利根町桜づつみ保存会の三谷会長は、「この度、和田さんに教えてもらった知識や情報をさっそく実行してみます。そして、オーナー全員が胸を張って誇れるような桜へと成長させ、全国に向けてPR活動していきたい。」と話していました。